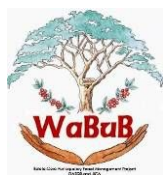


WaBuB PFM News

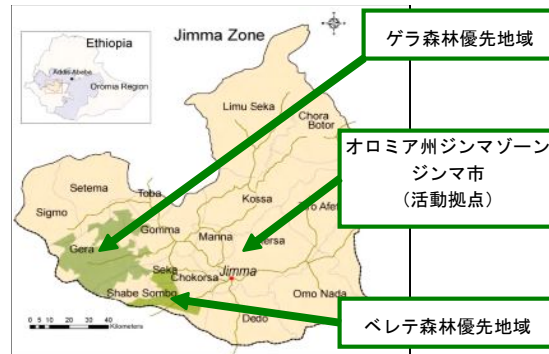
~Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management~



JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2008年7月5日発行 (第19号)



いきなり大雨期に入りました…

1年で最も雨の多い季節(ジンマにおける7月の平均降水量は210ミリ)を迎え、これまでの雨不足が嘘のように、ジンマでは毎晩バケツをひっくり返したような大雨が降っています。本来であれば3月頃から徐々に降り始めるのですが、今年は5月頃までほとんど雨が無く、6月中旬くらいから一気に雨量が増えました。村の状況も同じで、各地で川が増水し始め、陸の孤島となりつつある WaBuB もあります。どうにか馬で渡れる程度の川ならいいのですが、馬でも足を取られてしまう濁流や泥地もあり、困難を極めます。頼みの綱である日本製長靴もとうとう破れてしまい、しばらくはフィールドでのサポートも自粛せざるをえなさそうです。



幾つもの川が行く手を阻む

農業プロジェクト間による普及員(DA)合同研修を実施しました！

エチオピア国内では、現在2つの農業関連技術協力プロジェクトが展開されています。農民支援体制強化計画プロジェクト(通称FRG)と、灌漑農業改善プロジェクト(通称IFI)です。ベレテ・ゲラは森林保全プロジェクトではありますが、これら3プロジェクトの共通項として、普及員(DA)が多かれ少なかれプロジェクト活動に関わってきており、「技術・知識をプロジェクトから農民に橋渡しする存在」として、DAが大きな役割を担っています。今回、それぞれ異なる地域、異なるプロジェクトで活動するDA達がベレテ・ゲラに集まってもらい、普及手法の1つである WaBuB Field School を見たり、ワークショップで議論する中で、農民との関係の在り方などDAの役割について再認識してもらった他、3プロジェクト間のネットワークを構築することもねらいとし、DA合同研修を実施しました。

2日間の行程の中で、午前中は何れもまず WFS を視察しました。ベレテ・ゲラDAの他、FRGから12名、IFIから8名のDAおよびプロジェクトスタッフが集まり、WFS で行っている苗畑の状況を見たり、セッション(サブグループ毎による植物の観察・分析・発表)にも実際に参加しました。各プロジェクトで関わっている専門性を活かしながら、「堆肥の作り方」や「乾期におけるため池を利用した集水方法」など幾つもの提案が出されました。また、DAの支援の下に農民が自分達で苗畑を管理し、毎週の議事を進行していることに新鮮な驚きがあったようで、「自分達もフィールドスクールを実施してみたい！」という要望もあがりました。農民に技術を伝える際、いわばレクチャー(講義)方式による資料の配布や朗読など一方的な方法がこれまでDAによる通常の農民との関わり方でしたが、WFSのように農民間の意見や発見の場をDAが「ファシリテート」し、農民の目的や理解度に応じて、随時、新たな提案や情報をインプットしていくという「ファシリテーター」の役割を見てもらうことができたのは、大きな成果の1つであったと言えます。



DA達からの質問に農民が自信を持って答える

午後にはワークショップ形式で、DAがグループ毎にDAの役割や課題、関係者との位置づけ、農民への普及方法などを議論しました。ベレテ・ゲラの場合、挙げられた関係者の中の「情報リソース」として、政府機関とプロジェクトに限られてしまっており、日頃の活動の中で新たな技術・知識を吸収しにくい現状が浮き彫りになり、DAと他の情報と繋ぐためにプロジェクトとして何かできるか…新たな課題を見直す場にもなりました。その点でも、今回、FRG や IFI との接点を持つことができたのは良い機会であったと思われます。また一方で、関係者の中に「世界」を挙げており、WaBuB が生産したコーヒーの出荷・輸出先の他、森林保全を通じて地球温暖化などグローバルな問題にまで関わっているという自覚を持って活動に取り組んでいる姿勢には、非常に驚かされました。



DAの役割って何だろう？

技術協力プロジェクトの場合、プロジェクト終了後もインパクトや活動が持続できるかは、DAのようなエチオピア側スタッフの「能力向上」が大きな鍵であると言えます。各活動を通じた人材育成の他に、今回のような研修を継続してやる気を持たせ、新たな考えや情報リソースにアクセスできるようにすることも、非常に意義があると考えています。

WaBuB の組織化 第1ラウンド終了！

ベレテ・ゲラ森林優先地域内の対象45村で行われてきた WaBuB 組織化がほぼ1年経ち、第1ラウンド(1年目)のとりまとめをしました。ゲラ郡で 16、シャベ・ソンボ郡で 13、合計 29 の WaBuB が結成されました(下表を参照)。各村で1つの集落(1つの村の中に、およそ3~5の集落がある)を対象に WaBuB を組織化することを目標にしてきたので、ほぼ 7 割が第1ラウンドで達成できたと言えます。

この WaBuB 組織化には、11 のステップがあります(第6~8号参照)。各集落が WaBuB の目的や意義について理解をし、WaBuB への参加に合意した森林利用者の登録、森林境界の画定、森林管理仮契約の作成、という一連のステップを終了した集落が、この 29 の WaBuB にあたります。

では、この第1ラウンドで WaBuB 組織化ができなかった約 15 集落は、何が原因だったのでしょうか？そのほとんどの集落が、「森林境界の画定(ステップ7)」で足止めをしております。境界にある農民が合意しない、隣接する集落と境界紛争がある、といった問題はどの集落でも発生していますが、郡の森林官やプロジェクト・スタッフが間に入ることにより、これまでどうにか解決していています。WaBuB の組織化ができなかった集落の大半はサポートが行き届かず、普及員(DA)だけでは手に負えなかった箇所です。他の要因としては、WaBuB に対する理解度の低さが考えられます。11のステップに沿って合意を得ながら組織化を進めていけばいいのですが、DAの中には農民への説明が不十分なままに進めてしまい、いざ境界画定作業に入ると、「おれ達の森を奪いに来たのか!？」と誤解を招いてしまったケースもあります。こうしたことから、第2ラウンド(2年目)では、以下の3点を主な改善点として進めていきます。

- 1) ステップ毎に農民の合意を得ながら進めることをDAに周知し、提出された各ステップの議事録を基に、必要があればプロジェクトがサポートに入る。
- 2) 各 WaBuB の理解度や進捗を示したモニタリングシートを作成し、月例会議で随時更新して全体で問題を共有する。
- 3) モニタリングシートを基に、毎月プロジェクト・スタッフ活動計画を作成し、機能的なサポート体制を構築する。

これからの第2ラウンドでは、これまで約1年経験してきたDAは、基本的に新たに1つの WaBuB を組織化することを目標に取り組んでいきます。ゲラ郡で 35、シャベ・ソンボ郡で 16、合計 51 集落と大幅に増えます。WaBuB Field School の数もそれに応じて増えていくので、より効率的なモニタリング、サポート体制を築くことが不可欠になります。

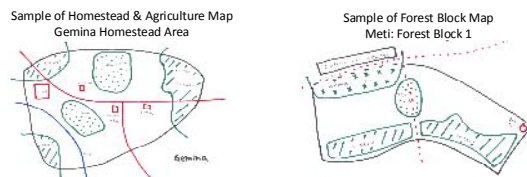
ベレテ・ゲラ森林優先地域	対象村	第1ラウンド実績	第2ラウンド目標
ゲラ郡	32	16	35
シャベ・ソンボ郡	13	13	16
合計	45	29	51

WaBuB Part 2 も始まります！！

さて、WaBuB 組織化を終えた 29 の集落は、この後どうなるのでしょうか？めでたく WaBuB 卒業…というわけにはいきません。ステップ11までをかけて作成した森林管理仮契約は「仮」で、1年間しか有効期間がありません。これを本契約化させるためには、「WaBuB Part 2」が待っており(組織化までの11ステップをPart 1と呼びます)、さらに以下の6つのステップがあります。

① WaBuB 森林地図の作成:

集落内の森林や農地など、土地利用の状況を分かり易く把握するために、WaBuB メンバーによる手描き地図(下図はサンプル)を作成します。



② WaBuB 合同森林モニタリング:

実際に WaBuB メンバーが森の中を歩き、モニタリングシートの項目に基づいて、森林資源の現況や違法行為の有無を確認します。

③ 木材資源に関するニーズ・アセスメント:

WaBuB メンバーが年間にどの程度の木材を建材や農機具のために必要とするのか集計し、森林にどの程度の影響があるのかを把握します。

④ 森林管理計画の作成:

モニタリングやニーズアセスメントの結果に基づき、将来的に森林や農地などの土地利用にどのような問題が生ずるおそれがあるのか、WaBuB メンバーが話し合います。その結果に基づき、どのように土地利用方法を変える必要があるのか(伐採跡の空地に植林するなど)をビジョン・マップとして描き、優先度の高い活動について、時期や責任者など詳細を計画します。

また、ベレテ・ゲラ地域の多くの集落において、これまでにグループ活動の存在や経験が全くと言っていい程に無く、PFM を実行する上で大きなハードルがあります。生計向上活動としての WaBuB Field School や森林コーヒー認証プログラムは、いわば PFM を実施し、自分達で管理計画を作成するようになるための集団的能力向上の機会であり、準備段階とも位置付けています。

⑤ WaBuB 内規の作成:

WaBuB メンバーが自分達自身で長期的に森林を保全し、管理していくためには、どのような決まりや役割分担が必要となるのか、内規として明文化します。

⑥ 森林管理本契約の締結:

仮契約の内容を見直し、森林管理計画や内規を盛り込んだ上で、森林管理本契約を締結します。

Part 2 の終了も1年を目標に始めています。Part 1 の第2ラウンドと合わせ、さらに熱い日々が待っています！